

アルミ輸入は合金スクラップ急増

アルミ生産は八カ月連続減

アルミ橋本健一郎氏リポート②



橋本健一郎氏

■田舎統況
五月前半は
厳格な都市封鎖(ロックダウン)を行っている上海の副市長が、今

ロックダウンを解除していく方針であることが明らかになった。このプラズマ材料もあつたが、英中銀のマイナス成長見通しや中国のロックダウン解除のめどが立たず、根強い需要減少不安から軒並み大幅下落となったのを嫌気し、LMEアルミ相場はDOWN、五月十四日時点で「七二三ドル(セツル)」と月初価格から二〇六ドルDOWNの前半締めとなった。

後半は都市封鎖(ロックダウン)が中国経済に与える影響が懸念された上、インフレによる世界景気減速懸念が重石などのマイナス材料あつたが、中国上海市がロックダウン(都市封鎖)を六月一日深夜に解除すると発表し、リスク選好の株高・ドル安となったことが、五月末日現在、後半スタート価格から七二ドルUPの「一八三三ドル」。

■前月の経済指標

◆月間のドル/円レート (TTS)
二九・八六ト二九・二二(円)。

◆自動車生産台数

生産動態統計によると、四月の自動車生産台数は前年比一九・三%減の五四万八、一五一台。輸出は前年同月比二二・九%減の二九万〇、九四〇台。

◆自動車販売台数

日本自動車販売協会連合会によると、五月の自動車販売台数(軽除く)は前年比二〇・三%減の二六万二、三五四台。

◆住宅着工戸数

四月の新設住宅着工は、持家は減少したが、貸家及び分譲住宅が増加したため、全体で前年同月比二・一%の増加となった。また、季節調整済年率換算値では前月比四七%の減少となった。新設住宅着工台数は七万六、一七九戸。前年同月比二・二%増、一四〇カ月連続の増加。

◆貿易関連指標

輸出
アルミ輸出は新地金が三・九%増の二二五ト、二次合金が七・六%減の一、六三八ト、スクラップが二二・六%減の二万五、四三八ト、

アルミ缶が三・三%減の七、二八ト。

輸入
アルミ輸入は新地金が〇七%減の二二万八二八ト、一次合金が一九・四%減の七万八、八六〇ト、スクラップが三九五%増の七二ト、合金スクラップが六六%増の六、四四三ト。

■前月の国内指標

日本アルミニウム協会発表の任意品の生産出荷動向によれば、板類、押出生産合計は前年比一五%減の二六万四、三三八トと六カ月ぶりマイナス。
日本アルミニウム合金協会発表のアルミニウム二次合金・同合金地金等生産実績によると、前年比一〇・四%減の六万三、六六三トと八カ月連続マイナス。出荷は一三、三三ト減の六万、六五九トと八カ月連続マイナス。

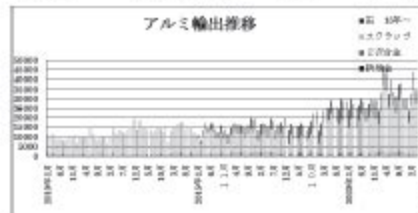
■国内概況まとめ

生産動態統計によると、四月の自動車生産台数は前年比一九・三%減の五四万八、二五一台。輸出は前年同月比二二・九%減の二九万〇、九四〇台。

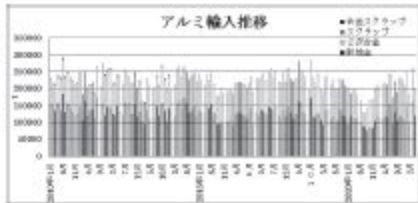
◆自動車販売

【自動車販売】
日本自動車販売協会連合会によると、五月の自動車販売台数(軽除く)は前年比二〇・三%減の一六万二、三五四台。うち乗用車一七・八%減、貨物一〇%減、バス三・三・九%減。(六面へ続く)

アルミ輸出推移



アルミ輸入推移



スクラップ上物は需給緩むか一集こもり需要一服で

(四回より続く)

【住宅着工急減】

四月の新設住宅着工は、持家は減少したが、賃貸及び分譲住宅が増加したため、全体で前年同月比二二%の増加となった。また、季節調整済年率換算値では前月四七%の減少となった。

新設住宅着工急減は七月六、一七九戸。前年同月比二二%増。一四カ月連続の増加。

新設住宅着工床面積は六、二五〇千坪。前年同月比一〇%増。一三カ月連続の増加。

季節調整済年率換算値では八八万三千戸。前月比四七%減。三カ月ぶりの減少。

【アルミ圧延・押出し品生産急減】

日本アルミニウム協会発表の圧延品の生産出荷動向によれば、板類・押出し品生産合計は前年比一五%減の一六万四、三三八と六カ月ぶりマイナス。

うち板類一〇万六、二一七で〇・一%増と六カ月連続プラス、押出し類は五万八、一三一と四・四%減と二カ月連続マイナス。

【アルミニウム二次合金・同合金地金等生産実績】

日本アルミニウム合金協会発表のアルミニウム二次合金・同合金地金等生産実績によると、前年比一〇・四%減の一六三、六三三と八カ月連続マイナス。出荷は一三・三%減の六万、六五九と八カ月連続マイナス。

サプライチェーンの寸断による自動車への減産影響が長引いている。自動車の生産回復が待たれるところだが、現状、まだ楽観視できない状況。

【輸出】

アルミ輸出は新地金が三・九%増の二五七、二二六トン、二次合金が一・六三%減の二五、四三三トン、合金スクラップが六・九%増の六、四四三トン。

【輸入】

アルミ輸入は新地金が〇・七%減の一、一八八、二八九トン、二次合金が一・九四%減の七、七〇八、八六〇トン、スクラップが三・九五%増の七、二二二トン、合金スクラップが六・九%増の六、四四三トン。

【関連】

四月の自動車生産が一・九三%減。五月国内販売台数が前年比一〇・三%減。上海のロックダウンによる半導体以外の中国からの部品供給の遅れとのこと。六月から解除されるため挽回生産に期待。

日本アルミニウム協会発表の圧延品の生産出荷動向によれば、板類・押出し品生産合計は前年比一五%減の一六万四、三三八と六カ

月ぶりマイナス。コロナによる集こもり需要で今後プラスに続くかの動向に注視。

【日本アルミニウム合金協会発表のアルミニウム二次合金・同合金地金等生産によると、前年比一〇・四%減の一六三、六三三と八カ月連続マイナス。出荷は一三・三%減の六万、六五九と八カ月連続マイナス。

サプライチェーンの寸断による自動車の減産影響が長引いている。自動車の生産回復が待たれるところだが現状、まだ楽観視できない状況。

アルミ輸出は自動車生産の減少などを受けスクラップが減少。

アルミ輸入は自動車生産減の中、バックオーダー向けの生産から合金スクラップが増加。

【スクラップ需給予想】

流通(二次問題)在庫は、需ウ情勢の停滞期待アルミの供給緩和を受け、LME価格が三、〇〇〇―二、七〇〇ドルと下落したが、自動車生産減から売りにくく、さりとて入荷も少ない。

需要面に関しては、需ウ情勢や上海のロックダウン解除にサプライチェーン回復から自動車向けスクラップは回復しそう。上物に関しては集こもりの需要一服が振みそう。

【LME・需給予想】

今月は以下の項目に左右される。

① 米国の金融政策

② 中国の動向(ロックダウン解除後の)

③ に関して

五月三―四日の連邦公開市場委員会(FOMC)議事要旨で、「大半の参加者」が六月と七月の会合でそれぞれ〇・五〇%ポイントの追加利上げを行うことが「適切となる可能性が高い」との見解を示したこと、現在のインフレ率がFRB目標の二%の三倍超で推移していること、五月の雇用統計が予想上回る三九万人増だったことから、六月の利上げは予定通り行われるとの予想から上昇が抑制されるのではないかと。

④ に関しては

六月一日にロックダウンが解除され、多大な影響を受けていた中国経済、欧米日の自動車メーカーが挽回生産に向けて動き出すとの予想から需給は引き締まるのではないかと。

これらを踏まえた六月のアルミ価格は、一七、〇〇〇―一三、五〇〇ドル(セトル)との予想。ドル円値は二二六円―二二五円(TTM)台を予測。

スクラップ購買価格に関しては、一〇円安―据え置き程度と予想している。